

## (参考2) 報告書の概要

### 1 この検討会でのCSRを検討する視点、重要な要素

・CSRとは、企業が各主体に及ぼす影響を評価して、これを考慮に入れて行動することであり、企業と、その行動により影響を受ける各主体との間のコミュニケーションに重点をおかれる、と整理

・そのため、企業、政府、市民といった各主体の新しい関係性を構築することがCSRであり、その推進のためには、以下の3点が重要  
対等性、自主性、公開性

### 2 新しい取り組み

各委員からの紹介を元に、以下のような先進的な取り組みの例を紹介。

企業内での取り組みの例

- ・ステークホルダー・ミーティングの開催 (損保ジャパン)
- ・CSRレポートの作成、作成への社員参加 (損保ジャパン)

外部からの働きかけの例

- ・エコマーク制度の進展 (日本環境協会)
- ・環境経営格付評価システム (日本環境経営学会)
- ・労働組合の取り組みの始まり (連合)

アジア地域での取り組み

- ・アジア地域での活発なNGO活動との連携 (シャプラニール、CSOネット)
- ・アジア進出日本企業の取り組み (松下電器、富士ゼロックス)

### 3 今後の方向性

CSRの推進には各主体が連携して取り組んでいくことが大切であることを確認。それを元に、多くの取り組むべきポイントが示された。(以下一部)

- ・中小企業の取り組みを進めることが必要
- ・企業、NPO、消費者団体など各主体間の連携
- ・CSRに取り組む企業が評価される仕組みの構築
- ・日本がアジアでCSR推進の核となること